



日島の石塔群(県指定史跡)

日本遺産 Japan Heritage

Vol. 6 「国境の島 壱岐・対馬・五島～古代からの架け橋～」 ひのしま 日島の石塔群(新上五島町)

新上五島町の西部に位置する日島。古代、烽火場のろしばがあったことから、「火島」といわれていたことが島名の由来です。日島の曲地区まがりの海岸には、古くは鎌倉時代から南北朝、室町時代にかけて建立された五輪塔ぼうきょういんや宝篋印塔などの石塔群が残されており、その数は近世に建てられた砂岩製の板碑いたびを含めると百基を超えます。

中世に建てられた石塔の素材は、福井県若狭湾の日引地区の安山岩質凝灰石(日引石)や兵庫県御影地域の花崗岩(御影石)などで、いずれも五島列島から遠く離れた場所につくられこの地に持ち込まれたものです。発掘調査の結果、石塔の下には人骨がないものもあり、墓以外に供養塔などもあると思われます。

当時このような立派な石塔を建てられる人は限られていたはずで、ここ日島は、中世には大陸との交流・交易の中継点として、活気があふれていたことが想像され、大海原を行き交っていた勇敢な人々へのロマンが膨らみます。



日本遺産とは

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産(Japan Heritage)」として文化庁が認定するもの



日引石製の宝篋印塔

1367年、曲地区から少し離れた釜崎に建てられ、建立年が刻まれている



日引石製の五輪塔

南北朝時代から室町時代前期にかけて建立されたもの



御影石製の五輪塔

主に南北朝時代に建立されたもの

問合せ 県の文化振興課 ☎095-895-2762

日本遺産 国境の島

検索

